

「好きな仕事をする」か「仕事を好きになるか」

8月30日(火)の5校時、全校生徒を対象に八戸市でタヒチアンダンススクール AOREVA を開校している天野佳子さんに来ていただき「私の生きがい～タヒチアンダンス～」の題で、タヒチアンダンスとご自身のこれまでの人生についてのお話を聞きました。(詳細は学校だより13号参照)

天野さんは大学卒業後、11年間東京都の公立中学校に勤めていましたが、タヒチアンダンスで身を立てる決意をし、現在に至っています。教員を辞めると話した時、校長・副校長はフリーズし「もったいない」と全力で引き留めたそうです。同僚の先生方からは「うらやましい！自分にはできない！」「は？それで食べていけるの？」と言われたそうですが、自身の信念である「自分が楽しいか、楽しくないのか？」「人のことも楽しませてあげられるか？」に従い決断したそうです。自分がダンスしていて楽しい！私が青森で踊ることで、青森のみんなを楽しませることが出来る！それが原動力となり、仕事を人生を楽しんでいる天野さんは輝いて見えました。

講話の翌日(9月1日:木)新聞の一面に、京セラ創業者である稲盛和夫氏が亡くなったとありビックリ。氏の著書を愛読する私にとって、かなりの喪失感がありました。『働き方「なぜ働くのか」「いかに働くのか」(三笠書房)』に次のような一節があります。(以下引用)「充実した人生を送るには、『好きな仕事をするか』『仕事を好きになるか』のどちらかしかないのです。しかし、好きな仕事を自分の仕事にできるという人は、『千に一人』も『万に一人』もいるものではありません。また、希望する会社に入社することができたとしても、希望する職場に配属され、希望する仕事に就ける人などほとんどいないはずです。大半の人は、人生の門出を『好きでもない仕事』に就くことから、スタートすることになるのではないのでしょうか。(中略)なんとしても、仕事を好きにならなければなりません。『与えられた仕事』を、まるで自分の天職とさえ思えるような、そういう心境にしていくことが大切なのです。『仕事をやらされている』という意識を払拭できないうちは、働く『苦しみ』を逃れることはできません。」

「自分が好きな仕事を見つけ、それを極め、周りに幸せを与える」「好きでもない仕事からスタートしてそれを極め、好きになり、周りに幸せを与える」どちらにしても自分が「好き(好きになる)」「楽しい(楽しくなる)」「極める(一生懸命努力する)」そして、「それが周りの人の幸せに、少しでもつながる」が仕事(人生)を充実させるキーポイントになりそうです。